

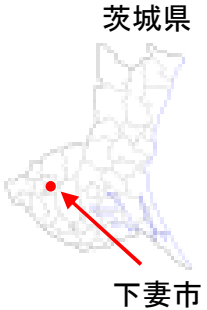
地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 普通作主体の平坦農業地域で、ほ場整備事業実施中の地区
- 家族経営で60～80歳代の零細農家が多く、後継者不足となっている。

【支援内容・背景】

- 地区内において担い手および後継者が不足しており、中心経営体に農地を集積・集約し、地域農業の持続を支援していく必要がある。
- 助成対象者は、人・農地プランの中心経営体に位置付けられており、地区内外での積極的な農地借り受けや作業受託を行っている。さらなる集積や規模拡大を支援し、地域農業の維持・発展を図る。



助成対象者の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成20年 継承により営農開始
- 平成24年 人・農地プランの中心経営体に位置付けられる。
- 平成30年 茨城県県西地区輸出米協議会会長として県産米の輸出拡大に取り組む
- 令和3年 地区内農家の引退に伴い、農地中間管理機構を利用した大規模な農地引き受けを行う。

《事業活用の背景》

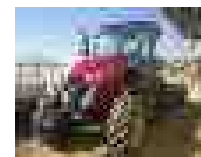
- 経営拡大のために作業効率の向上が必要。ロータリーの増設、モアの導入により省力化を計画。
- 高馬力のトラクターを増設することで、1日あたりの作業可能量を増やし、経営規模の拡大を図る。

【事業実施時の状況】  
〈H30年度〉

- 売上高 17百万円
- 経営面積 18 ha
- 米輸出 5,400kg

《事業による整備内容》

- トラクター113PS 1台  
事業費 10,967千円  
(国費 5,483 千円)
- ロータリー2.6m1台  
事業費 1,447千円  
(国費 723千円)
- モア1.5m 1台  
事業費 788千円  
(国費 394千円)



【現在の経営状況】

- 売上高(R3年度)  
44百万円 (258%)
- 経営面積(R4. 4月末現在)  
55ha (305%)
- 米輸出(R4年度契約量)  
16,000kg (296%)

事業の  
効果

- 対象者: 機械の大型化、省力化により面積を拡大し、売上高が増加
- 地区: 中心経営体として地区内の農地借り受けを進め、耕作放棄地解消・防止に寄与。

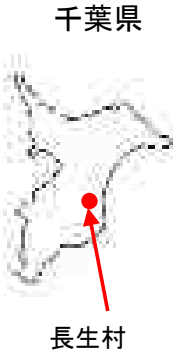
地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 水稲と畑作が主体の平地農業地域
- 葉たばこ農家の離作や後継者不足により遊休農地化した畑地が拡大しており、その解消に向け、そばを中心とした生産体制の強化に取り組む必要がある地域

【支援内容・背景】

- 拡大する遊休農地の解消とともに、担い手の所得向上を図るため、そばの生産体制の構築を支援することが必要。
- 助成対象者は、地域で「そば」好きな仲間が集まり、後に法人化した組合。当地域は海に近く、そばの作付けに不向きだが、助成対象者は、栽培期間中農薬不使用でミツバチ交配などにより従来より「甘みと香り」が高いそばの生産、そば粉を使ったラスクなどの商品開発等を通じてそばの生産拡大を目指している。こうした取組が地域の経営モデルとなるよう育成・支援。



助成対象者の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成23年頃 そば栽培開始
- 平成25年 そば栽培本格化
- 平成26年 オーナーズクラブ開始
- 平成26年 法人化(農事組合法人)
- 平成27年 ふるさと納税提供開始
- 令和3年 法人のHPを開設  
オンライン販売を開始
- 令和4年 ふるさと名品オブ・ザ・イヤーで地方創生賞入賞

《事業活用の背景》

- そばの売上高確保のため、そばの栽培面積の拡大を図るとともに、良質なそばの安定生産が必要。そばの作付面積の拡大に向け、遊休農地の耕起、収穫作業の効率化に資する高性能機械を導入。

【事業実施時の状況】  
〈H30年度〉

- 売上高 857万円
- そば 19.1ha

《事業による整備内容》

- トラクター 57ps 1台  
(アタッチメントを含む)
- 事業費 9,350千円  
(国費 4,328千円)



【現在の経営状況】  
〈R2年度〉

- 売上高 1,423万円 (166%)
- そば 27.8ha (146%)

事業の  
効果

《対象者》 そばの栽培面積の拡大に伴う生産量の増加や、そば(麺)販売に加えて、そばの実や焼酎、ラスクなど商品の高付加価値化、さらにHPでの販売やPRなどへの取組が図られ、売上高の増加が実現した。

《地区》 そばを中心とした生産体制の構築が図られ、遊休農地の解消とともに農地の利用集積が進み、遊休農地を活用した安定した経営モデルが確立した。